

からから 便り

もくじ

- 縁と縁の道をゆく
【ふたりの「開拓の祖」が交差した地～札幌市篠路～】
- 就職活動・移住希望者向け交通費支援について
- はなれた家族の介護について～相談先や交通費割引をご紹介します～
- 寄稿「1ページのたより」
- 各相談窓口
- 北海道における被災避難者の受入状況
- 編集後記



札幌市北区篠路の航空写真を見比べると、川の形も変わり、かつての田畑のほとんどが住宅となったことがわかる。たった70年ほどで、ここまで変えられることに驚く。

出典：地理院タイル
左 / 年代別の写真（1945年～1950年）
右 / 2022年の写真 ※緯度経度とも同じ場所



ふたりの「開拓の祖」が交差した地 ～札幌市篠路～

時代は江戸時代、のちに「札幌開拓の祖」と呼ばれる早山清太郎は1817（文化14）年、磐城国白河郡米村（福島県西白河郡西郷村）の農家の三男として生まれました。家業が嫌いで独立心旺盛だった清太郎は、たびたび

家を飛び出し各地を巡り、福山城（北海道松前町）築城の工夫募集の話聞き、1852（嘉永5）年に蝦夷地へやってきました。清太郎35歳の年です。

4年間人夫として働いたあと、小樽を経て、1857（安政4）年に琴似（札幌）に移住。それまで様々な仕事をしてきた清太郎は、ここで農業で身を立てる決意をし、この時代まだ成功例がなかった米作りに挑戦。翌年「石狩平野初の米作り」に成功しました。箱館奉行は驚き、米は江戸幕府にも献上されました。その後より良い土地を求め、1860（安政7／万延元）年に篠路（札幌）へ移住し開墾していきます。清太郎が43歳になる年です。

1868（慶応4／明治元）年に戊辰戦争が起こり、江戸から明治へと時代は大きく移り変わります。北海道に開拓使が置かれて札幌のまちづくりが始まると、清太郎は「古くから札幌に暮らし、気象・土地・植生をよく知る人物」として頼りにされました。

札幌神社（現・北海道神宮）の敷地選定をしたのも清太郎です。この頃の篠路は、本州からの人や荷物を札幌に運ぶための、水路と陸路の中継地点でした。石狩まで蒸気船などで運び、渡し船に乗せ替えて篠路まで川を上り、そこから陸路で移動したのです。

「当別開拓の祖」として知られる仙台藩岩出山伊達家の人々は、戊辰戦争に敗れて領地を没収され、1871

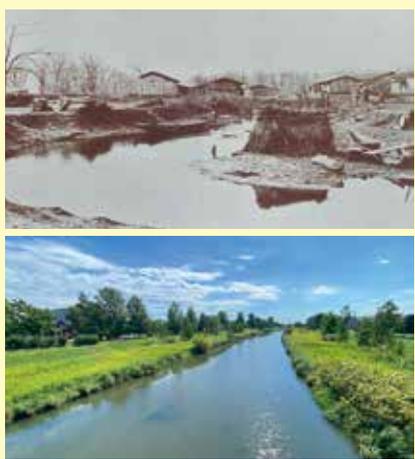
（明治4）年に故郷を離れ、開拓民として北海道に入植しますが、最初に与えられたのは不毛の地・石狩の豊富（しゅうぶ）地でした。開拓は進まず困窮を極め、当主伊達邦直は開拓使に当別への移転を願い出しました。そして許可を得た伊達邦直らは同年7月、礼を伝えるため、石狩から水路を使い札幌の開拓使へ出向きました。実はその時、深夜のほんの数時間ですが、篠路の早山清太郎の家で食事をとり休息したという記録が、伊達邦直著「石狩国石狩郡当別村開墾顛末」に残されています。

この時、早山清太郎も伊達邦直も、お互いが「開拓の祖」として語り継がれることになるとは思いもしなかったのではないのでしょうか。

※参考（札幌市公文書館所蔵）

・札幌発掘 早山清太郎と札幌建府の物流 発行：了寛紀明

・早山清太郎資料（君尹彦青年学級資料）



上／明治4年（1871年）札幌市篠路村の景 日本研造（函館）まさにこの年、早山清太郎の家に伊達邦直が立ち寄った。
下／現在の伏籠川（篠路）。明治4年の写真は「おそろくこの辺ではないか？」と言われているが、川の形もすっかり違うので果たしてどうか？

就職活動・移住希望者向け

交通費支援について

岩手県、宮城県、福島県が実施する、就職活動・移住支援の概要です。就職支援サイトへの登録や事前申請が必要な補助金がありますので、詳しくはそれぞれのホームページをご確認ください。



《岩手県》「就職活動交通費支援」

県外在住者が県内企業等へ就職活動を行う際の交通費や、学生のインターンシップ参加に伴う交通費・宿泊費に対する支援。

支給金額：交通費 一律 10,000 円
(東北地区以外の居住者の場合)

宿泊費 支払額に応じて一律支給

※年度内、一人2回まで支給

窓口：ふるさといわて定住財団



《福島県》

「ふくしま移住希望者支援 交通費補助金」

福島県内に移住を検討する18歳以上の県外在住者が、現地調査訪問活動を行う際の交通費の補助。

補助上限額 24,000 円(北海道からの場合)

※年度内、一人1回まで利用可能

窓口：福島県東京事務所



《宮城県》

「学生IJUターン就職活動 支援事業補助金」

学生および既卒3年以内の県外在住者が、県内企業へ就職活動またはキャリア形成活動を行う際の交通費・宿泊費に対する補助。

補助限度額 40,000 円

(学生の所在地と目的地を往復するためにかかった交通費及び宿泊費のうち、1/2に相当する額を補助)

※年度内、補助限度額に達するまで利用可能

窓口：みやぎIJUターン
就職支援オフィス



「ふくしま12市町村移住支援 交通費等補助金」

ふくしま12市町村に移住を検討する18歳以上の県外在住者が、現地調査訪問活動を行う際の交通費・宿泊費の補助。

補助上限額 24,000 円(北海道からの場合)

※年度内、一人5回まで利用可能

12市町村：南相馬市、田村市、川俣町、浪江町、富岡町、楡葉町、広野町、飯館村、葛尾村、川内村、双葉町、大熊町

窓口：ふくしま12市町村
移住支援センター



はなれた家族の介護について ～相談先や交通費割引をご紹介します～

相談先について

コロナ禍で往来がしにくかったこの数年、はなれて暮らすご家族が気がかりだった方もおられるのではないのでしょうか。年月の経過とともに高齢になった親御さんや親族へのサポートについて、相談できる窓口のひとつが「地域包括支援センター」です。

地域包括支援センターは、65歳以上の方の暮らしを地域でサポートするための拠点で、高齢者が持つ悩みを相談できる場所です。相談に乗ってくれるのは、保健師(看護師)、社会福祉士、主任ケアマネージャーなど専門職の方で、本人や家族はもちろん、近所の方から寄せられた相談にも対応しています。

相談先は、支援対象となる方が暮らしている地域に設置されている地域包括支援センターです。

たとえば「一人暮らしの高齢の親が心配。受けられる介護サービスはあるのだろうか」というときは、親御さんが住んでいるエリアを担当する地域包括支援センターに相談します。また、介護を担う家族の負担やストレスに関する相談にも応じてくれます。はなれて暮らす家族からの相談にも対応してくれるので、心配なことがある方は抱え込まずに相談することをおすすめします。

交通費の介護割引や 利用できる運賃割引サービス

もし、遠距離介護やたびたび帰郷することが求められた時、活用できる交通費割引サービスがあります。

飛行機

北海道からの場合、ANAとJALで介護割引運賃があります。割引率から考えると、LCCや早割の方が運賃は抑えられますが、急な帰郷でANAやJAL以外の選択肢がない場合に活用できます。利用には事前登録が必要となりますので、詳しくは航空会社にお問い合わせください。

JR

「えきねっと」に登録すると割引切符を予約購入することができます。「えきねっと」は、JR東日本が運営するインターネット予約サービスです。JR北海道の在来線も対象で、新幹線や特急列車の割引切符の予約・購入ができます(列車・席数・区間に限定あり)。新幹線を利用しての帰郷や道内での移動に活用できます。





寄稿 / ページのたより

この10月、北海道に来て13度目の誕生日を迎える。

50代半ばで避難し、数年後には70歳になる。北海道での生活を築かなければ、と慣れない仕事をし、家族の世話をしたりして過ごしてきたけれど、今は仕事もやめたので健康だけが気掛かりな日々。これからこそ、元気で動ける体でいたいと…と思いつながり過ぎてしまっている。

福島県は、震災・原発事故の体験や避難生活による不安やストレスを抱える県民に寄り添い、適切な支援を提供することを目的に『こころの健康度・生活習慣に関する調査』を行なっている。震災直後は電話での調査だったが、その後は調査票が送られてくるようになった。調査票には健康状態や生活習慣（睡眠、運動、喫煙、飲酒など）について記載する。毎年調査票を書いているが、それほど私の答えは変わっていない。

送付後、臨床心理士、保健師、看護師などから電話がきて記載内容をもとに話をする。これまででは、仕事中心にかかっていたので話ができなかったが、今年は仕事もやめて時間があったので、ゆっくり話すことができた。

「これからの生活についてはどんな不安がありますか？」と聞かれ、思わず黙ってしまった。不安しかな

い。不安がないなんて人いるの？あたりまえの質問にさえビリッとしてしまう。

「近くに相談できる友人はいますか？」とか細かく聞かれる。

「仕事をしていて収入があったけれど、今は年金生活になった」と話したところで、どこからもお金は湧いてこない。震災に遭ったからの悩みはありすぎて、どれが悩みなのかわからない。解決できないことも多くて気持ちの整理がつかないからだ。

「これからも北海道で暮らしますか？」と言われると、郷愁の思いがわいてくる。震災がなかったら友人や親類と今も変わらぬ交流ができただろう。

子供が家庭を持ち独立したことを伝えると「子供たちのところで暮らす事は考えませんか？」と聞かれた。今すぐ子供たちのところへ行くな

ら、まだ私は健康だし新たな生活基盤を作ることも可能かもしれない。でも、さらに高齢になり体も動きにくくなったら、行った先でまた一から新たな人間関係を作り上げていくことができるかどうか…そんな思いを口にする、電話の向こうから

「なるほど、そういうことも考えるのですね、気づきませんでした。確かにそうですね、気づきませんでした。確かにそうですね」と言われた。

同じ気持ちの高齢者は多くいると思うし、それが移動できない理由だということがわからないのか…と思いつながり話を続けた。「年金生活になり都会での暮らしは大変だろうし、簡単には腰ががらないです」、そう伝えると「福島県内の低価格の住宅募集の資料を送る」と言われ、一度は「福島には戻らないから要らない」と言ったものの、送ることで

彼らの実績になるのだろつなと思

い、送っていただいた。

約1時間話をして思ったのは、自分の中の不確かな気持ちや、答えていると確信になり、思いのほか気持ちの整理がつくし、自分の抱えている問題がわかってくるということ。そしてこれからの方向性なども少し見えてきたような気がした。

そんなふうに声に出して伝えられることは、なにかの解決につながる。ことがあるが、声に出せない悲しみやあきらめは、いつも深く悲しくずしんと体の中にある。それを少しずつポイポイ落としながら、毎年健康でいられること、北海道の美しい自然に癒され、美味しいものを食べて、少しでも楽に暮らせるように健康でいたいと、今年も誕生日に願います。

(ペンネーム 天ぶらまんじゅう)

聞かれて分かったわ。



